

2015年 9月7日

最近異常気象が続発している、と言われる。またこの原因が地球温暖化による海洋と大気の変化が激しく変化するようになったと言われ、CO2削減にさらに励めとTV、公報では声高に唱えられている。果てはこのためにクリーンな原発を早く再稼働せよと政府はおっしゃる。異常気象なのは判るがその後の原因がおかしい。まずはCO2による温暖化が進んでいることが疑問である。むしろ地球は寒冷化に向かっていると言われている。極地の氷が南極、北極との増加している。一時は北極の氷がとけたと言って、北極熊が氷から海に落ちるような映像を流して、温暖化が進んでいると宣伝をしていたが、むしろ極冠の面積は広がっていると言われている。太陽活動の低下により逆に寒冷化に地球は向かっていると言われており、CO2排出による温暖化の影響は少ないと言われている。これまで地球は何度も寒冷化を迎えており、太陽活動との因果関係が大きいとされている。国をあげてCO2削減を唱え、このために原発再稼働を急いでいる理由がわからない。多分原発利権のために政府は動いているのだろう。九電の川内原発が国の基準に合格したとして再稼働を始めたが、この基準そのものが再稼働できるような基準のためこの基準に合格したから安全性は確保されたといい加減なことをいって、再稼働にいたった。また事故を起こすと思われる。

先ほど寒冷化が進んでいるといったが、一つ理屈に合わない現象がある、それは海洋の温暖化である。これが異常気象の元凶と思われるが、何故寒冷化に向かっているのに海洋温度が高いのだろうか？海洋の温度が上がる原因として温暖化の影響と言われているが、これが影響するよりもさらに海洋の高温暖化が進んでいると言われている。海洋温度を上げている原因としてもう一つ考えられるのではないかと私は考えている。それは地球そのものが高温化している、すなわち地球内部の活動が増加しているのではないかと思える。この活動の増加によりマグマ等の熱源が海洋の温度を上げているのではないかと思える。この地球内部の活動が活発化していると思われる現象が幾つか起こっている。まずは磁極の移動が大きくなった。磁北極はすでに大きくずれてきた。磁極の逆転が起こるのではないかとされている。磁極は地球内部のマグマの動きと関連していると言われ、このことから地球内部の変化がおおきくなっていると思われる。また最近シンクホールがいたるところで発生している。フィリピン近くの海底が1~2日で上昇した。ドイツや南アメリカで海岸が隆起した。メキシコでは地割れが相当な距離に発生した。日本では西の島の噴火が収まらず新島が成長し続けており、きわめて珍しいと言われている。また世界各地で、火山噴火、地震が頻発している。こうしたことからやはり地球内部の活動がおおきく変化しているのではないかと思える。これは昔、大陸を移動させた力が働いているのではなからうか？

いつまでもCO2などと、腑抜けた議論をしていないで、もっと地球内部の状況をつぶさに調べるのが重要と思える。マグマの対流は一定の安定状態の中にあり、これがたとえばアメリカ西海岸で地盤が生成され、日本まで動いてきており、日本列島の近辺で地球内部に沈み込むと言う、プレートテクトニクスがモデル化されているようだが、この地殻の上昇点、沈降点が今までは定常状態にあった。だがこれがマグマの対流の定常状態とすると、現在この定常状態が変化しようとしているのではないかと思える。世界各地でこの定常状態が変化するタイミングは多分一瞬で、次の定常状態に移行するものと思われ、すでにこの状況が始まっていると思われる。この現れが海流の温暖化にも影響し、海水温が下がらないのではないかと思う。今後この影響がさらに顕在化して、我が日本列島も今の形のままでいられるのだろうか？いずれにしてもこのような地球内部の変化が起きていることをもう少し真剣に調査してもらえないかと思う。過去に何度か伝えられている、いろいろ文明崩壊に繋がる事態かもしれない。これからますます火山活動、地震の活発化、異常気象が激増していくと思われる。